

意見交換：並行在来線会社の収支改善策について

	項目	主な事例	内容
① 利用促進策	地域密着ダイヤ 増便・快速運行	あいの風とやま鉄道	運行本数：開業前127本⇒149本（+22本） 快速列車：「あいの風ライナー」（5本/日、泊・富山⇄金沢間） ※通勤・通学時間帯に増便、快速運行を実施
	新駅の設置	I G Rいわて銀河鉄道 「青山駅」	乗降者数：約3,500人/日（H30）…県内区間の駅では武生、鯖江並み 駅周辺：既存住宅地、高校、病院 など 整備費：鉄道施設 約4.6億円、都市施設 約3.7億円
		あいの風とやま鉄道 「高岡やぶなみ駅」	乗降者数：約600人/日（H30）…県内区間の駅では南条、大土呂並み 駅周辺：新興住宅地域（駅前で土地区画整理事業を実施） 整備費：鉄道施設 4.5億円、都市施設 3.5億円
	既存駅の機能向上	I Rいしかわ鉄道 パーク&ライド駐車場整備	東金沢駅(金沢市)：110台（H28.3完成） 森本駅(金沢市)：20台（来年度完成予定）
	観光列車の運行	しなの鉄道「ろくもん」	営業利益：2千万円/年 整備費：1.2億円（3両編成、改造）
		えちごトキめき鉄道「雪月花」	売上：約1億円(H29年度) 整備費：6.0億円（2両編成、新造）
	その他	各社	企画切符の販売、マイレール意識の醸成 など
② 関連事業の展開	I G Rいわて銀河鉄道	旅行、飲食、不動産、小売、家事代行 など	
③ 運賃水準の引き上げ	各社	通勤・通学それぞれ差を設けて引き上げ	

(参考) 収支予測調査結果 (概要)

平成30年8月2日
並行在来線対策協議会説明資料抜粋

- 【試算の前提】
- ・既に開業している並行在来線会社の事例を県内区間の状況（距離、推計初期投資額など）に当てはめて試算
 - ・利用促進策、関連事業の展開、運賃水準引き上げなどの収支改善策は織り込んでいない。

		収支予測		積算根拠
		開業時 (2023年度)	開業10年後 (2033年度)	
収 入	運賃収入	14.8億円	13.3億円	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃×乗車人数として推計 ・運賃は、JR運賃据え置き ・乗車人数は、平成28年度需要予測調査結果（平成27年度時点）を平成28年度時点に補正 開業時 18,576人 開業10年後 16,314人
	運輸雑収	0.3億円	0.3億円	・他の会社の事例を参考に運賃収入の2.3%と仮定
	貨物線路使用料	17.8億円	17.8億円	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年3月ダイヤでの貨物列車と旅客列車の割合で貨物線路使用料を推計 ※JR貨物が貨物列車と旅客列車の車両の走行キロの割合に応じて支払うもの
	計	32.9億円	31.4億円	
費 用	人件費	15.6億円	15.6億円	・約310人として推計
	運行経費	4.7億円	4.7億円	<ul style="list-style-type: none"> ・他社の事例に基づき、本県経営分離区間の距離から試算 ※車両に係る経費や運転に要する費用
	鉄道資産保守費	12.7億円	12.7億円	<ul style="list-style-type: none"> ・他社の事例に基づき、本県経営分離区間の距離から試算 ※線路や電気関係など鉄道資産の修繕等に要する費用
	管理費	4.0億円	4.0億円	<ul style="list-style-type: none"> ・他社の事例に基づき、本県経営分離区間の距離から試算 ※本社関係経費など総務関係費用
	償却費、税金、利息	4.1億円	9.4億円	<ul style="list-style-type: none"> ・他社の事例に基づき推計した初期投資額や収入、費用から試算 ※減価償却費、固定資産税、消費税、法人税、借入金利息 等
	計	41.1億円	46.4億円	
収 支 差		▲8.2億円	▲15.0億円	・単年度収支